

## 第3回霊性シンポジウム --テーマ「霊的同伴」--

2023年5月27日 13:00～

「W. バリー、W. コノリー『霊的指導の実践』の内容と日本への適応」

レジメ by 村上芳隆 ofm

1. 「霊的指導の実践」：①出会い、②再会、③協働、④出版  
参照：カトリック新聞2022年10月23日号インタビュー記事
2. 「霊的指導の実践」：推薦文、書評 etc. (pp2-3)
3. 「霊的指導の実践」：内容 -構成&目次- (pp4-5)
4. 「霊的指導の実践」：日本への適応 (pp6-7)
5. 適応、他の可能性（1）
  - ・ マザーテレサの心の闇（宗教体験を巡って）  
→ ネガティブ・ケイパビリティ
  - ・ 中動態という視点
6. 適応、他の可能性（2）

参考資料のダウンロード URL : <https://x.gd/PvI58>

## William A. Barry, William J. Connolly, “The Practice of Spiritual Direction”

の要約と推薦の言葉 (by ChatGPT4.0: 英語単語数 882、日本語約 2200 字)

2023 年 5 月 27 日

ウィリアム・A・バリーとウィリアム・J・コノリーによる “The Practice of Spiritual Direction” は、霊的指導のための深い洞察と包括的なガイドです。霊的成長に関心のある人、霊的な旅に同行する人にとって必読の書です。霊的指導者、宗教指導者、あるいは神との関係を深めようとする人であろうと、本書は貴重な洞察と実践的な指針を与えてくれるでしょう。

経験豊かな霊的指導者であり、イエズス会の司祭である著者達は、霊的指導をセラピーやカウンセリングの一形態としてではなく、個人の霊的な旅に同行するプロセスとして、日々の経験の中に神の存在と働きを識別するのを助け、神と個人的な関係を育むものとして紹介しています。霊的指導は、指導や管理ではなく、交わり、促進、識別のためにあることを強調しています。

本書で最も示唆に富むのは、神と個人との関係の個人的かつダイナミックな性質についての考察です。バリーとコノリーは、神は人間一人ひとりとの親密な関係を望み、その人の経験、ニーズ、願望に応じた方法でコミュニケーションをとっていると主張しています。霊的指導者の役割は、指導を求める人が、神のユニークなコミュニケーションに気づき、お応えすることを助けることであるとしています。

本書はまた、霊的指導とは祈りの役割を深く掘り下げています。祈りは神とのコミュニケーションのための重要な手立てであり、識別のプロセスにおける重要なものであるとしています。著者たちは、さまざまな祈りの形を取り上げ、神との個人的なコミュニケーションを促進する祈りのスタイルを確立するための手引きを提供し、祈りに関する共通の課題や障害に取り組んでいます。

本書のもう一つの重要なテーマは、観想的な態度であり、自分の人生における神の存在と働きを深く意識することと、観想を定義しています。霊的指導者は、メディテーション、マインドフルネス、回想的読書などの実践を通して、指導を求める人の中にこの姿勢をいかに育むことができるかを探求しています。また、このような態度がもたらす変容の可能性についても取り上げ、個人的・霊的な深い成長につながることを示唆しています。

本書を通して、バリーとコノリーは、霊的指導者と指導を受けようとする人との関係の重要性を強調しています。この関係のダイナミクス、優れた霊的指導者の資質とスキル、そして霊的指導プロセスの質と統合性を保証するスーパービジョンの役割を論じています。

本書を推薦するにあたり、「本書は霊的指導の分野における代表的な著作であり、その深さ、明確さ、実践性で有名である」と、私は申し上げたい。著者の豊富な経験と知恵が、思慮深い考察、明確な説明、洞察に満ちたアドバイスに表れています。本書は理論的にしっかりしているだけでなく、実践的に役立つものであり、霊的指導をどのように実践し、利益を得るかについて具体的な指針を与えてくれます。

経験豊富な霊的指導者であれ、この分野の初心者であれ、神との関係を深めようとする人であれ、本書は何かを与えてくれるでしょう。霊的指導への理解を深め、スキルと実践を

高め、霊的な旅路をサポートすることができます。もしあなたが霊性、自己成長、あるいは他の人の霊的な旅をサポートすることに興味があるなら、ウィリアム・A・バリーとウィリアム・J・コノリーによる『霊的指導の実践』を強くお勧めします。

この本は、神学生、教会指導者、カウンセラー、セラピストなど、対人支援の働きをしている人たちにとっても貴重な資料となります。霊的指導者でなくても、支援関係の力学、個人の変容のプロセス、人間の経験における宗教的次元の重要性など、本書の洞察から恩恵を受けることができます。

結論として、『霊的指導の実践』は、理解を深め、実践を高め、霊的な旅をサポートすることができる、深遠で実践的なガイドブックである。理解の深さ、表明の明確さ、そして現実の霊的实践への適用可能性から、私は本書を強く推薦します。

本書を読み進めていくうちに、著者たちが皆さんの個人的な霊的体験を振り返るよう招き、神との関係をより深くするようチャレンジしていることに感謝することでしょう。バリーとコノリーは、霊的指導とはプロセスであり、その過程で起こりうる困難や障害について議論することを避けず、これらの困難を乗り越える方法について思いやりと実践的なアドバイスを提供するものである。神との個人的な関係がもたらす変革の力を強調し、それが深い愛、受容、帰属意識、明確なアイデンティティと目的意識、そして個人と霊的な深い成長につながることを示唆しています。

要するに、『霊的指導の実践』は単なる本ではなく、あなたの霊的な旅路のガイドであり、同伴者であり、インスピレーションの源なのです。ゆっくり読み、振り返り、時間をかけて読み返すべき本です。単に情報を与えるだけでなく、読む人を養成し、挑戦し、変容させる本です。

ですから、皆さんと共に霊的な豊かさを求めている人、神とのより深い関係を求めている人、他の人の霊的な道に同伴しようとしている人は、ウィリアム・A・バリーとウィリアム・J・コノリーによる『霊的指導の実践』は必読の書と言えます。知恵と謙虚さ、そして実践に満ちたこの本は、霊的指導者と指導を求めている人にとって貴重な資料であり、読者を神の愛の海に深く潜り込ませ、それぞれの霊的な旅の神聖さを味わうよう招いています。

# 霊的指導の実践（目次と概要）

THE PRACTICE OF SPIRITUAL DIRECTION  
William A. Barry & William J. Connolly

## 第2版序文 5

### Preface to the Second Edition

『霊的指導の実践』第2版の序文は、第1版の反響と影響を振り返り、第2版で行われた更新と改訂を説明し、本書の有用性と影響の継続に対する著者たちの希望を表明しています。著者らは、霊的指導の実践への取り組みと、幅広い読者にとってアクセスしやすく適切なものになりたいという願いを強調しています。

## 第1部 霊的指導の紹介 14

### Part One - Introducing Spiritual Direction

## 第1章 霊的指導とは何か 14

### Chapter 1 - What Is Spiritual Direction?

第1章では「霊的指導」の定義について：霊的指導とは神との関係を深め、自己理解を深め、平和、充実感、神聖なる方とのつながりを深めることができる変容のプロセスです。

## 第2章 宗教体験の重要性 14

### Chapter 2 - The Centrality of the Religious Dimension of Experience

第2章では、霊的指導における経験の宗教的次元の重要性を考察しています。著者は、日々の体験の中に神の存在を認識し、お応えすることが霊的指導の核心であると主張しています。そして、このプロセスにおける気づき、主観的解釈、感情的考察を強調しています。また、識別の複雑さと誤った解釈の可能性について注意を促しています。この章では、体験の宗教的な次元に注意を払うことによって、神との関係を深め、深い個人的変容をもたらすことを示唆しています。

## 第2部 指導を受ける者と神との関係を育むこと 49

### Part Two - Fostering the Relationship Between the Directee and God

## 第3章 神と個人の間のかかわり 49

### Chapter 3 - The Relationship Between God and Individuals

第3章では、神と個人との関係の本質と意味を考察しています。著者は、神が各個人との個人的な関係を望み、ユニークな方法で個人とコミュニケーションしていると主張する。指導者と被指導者が神のコミュニケーションを認識し、お応えすることを助ける霊的指導者の役割、このプロセスにおける祈りの重要性、そして個人が神との関係において直面する課題について議論しています。また、神との個人的な関係がもたらす変革の可能性を強調し、それが個人的、霊的な深い成長につながることを示唆しています。

## 第4章 観想的態度の養成 70

### Chapter 4 - Fostering the Contemplative Attitude

第4章では、観想的態度を育む上での霊的指導者の役割を考察しています。著者らは、この姿勢を、神の存在と行動を深く意識する世界での在り方と定義し、それに関連する実践、利点、課題を討議している。そして、この態度が持つ変革の可能性を強調し、その育成における忍耐、粘り強さ、優しさの重要性を強調しています。

## 第5章 主要な内的事実について人が神と分かちあうのを助ける 98

### Chapter 5 - Helping a Person Notice and Share with God Key Interior Facts

第5章では、人が重要な内的事実に気づき、神と共有するのを助ける霊的指導者の役割に焦点を当てています。著者は、霊的成長と識別の過程において、積極的な傾聴、オープンエンドの質問、神との正直なコミュニケーションが重要であることを強調しています。霊的指導者は、ガイダンスを求める人が自分の内面にある事実に気づき、その経験を神と分かち合うことを支援することで、神とのより深い関係を育み、個人の霊的な旅をサポートすることができます。

## 第6章 関わりと抵抗 123

### Chapter 6 - Development of Relationship and Resistance

第6章では、霊的指導者と指導を求めるとの関係の発展と、霊的指導のプロセスで起こりうる抵抗の現象について

考察しています。著者らは、関係の力学、抵抗のさまざまな形態、およびそれらに対処するための対処法(戦略)についての洞察を提供します。忍耐と思いやりをもって抵抗を認識し、それに立ち向かうことによって、霊的指導者と指導を求める人の両方が成長を促進し、神との関係を深め、霊的な旅の課題と変容をナビゲートすることができます。

## 第7章 宗教体験を識別する基準 154

### Chapter 7 - Criteria for Evaluating the Religious Dimension of Experience

第7章では、霊的体験の宗教的側面を評価する基準に焦点を当て、霊的体験の真偽と意義を見極めるための枠組みを提供しています。これらの基準をガイドラインとして使用することにより、霊的指導者と指導を求める人の両方が、彼らの人生における神の存在と働きをよりよく認識し、成長を促し、神との関係を深めることができます。

## 第3部 指導者と指導を受ける者との関係について 185

### Part Three - Aspects of the Relationship Between Director and Directee

## 第8章 霊的指導者になっていく 185

### Chapter 8 - Becoming a Spiritual Director

第8章では、霊的指導者になるためのプロセスを考察し、効果的な霊的指導に必要なスキル、資質、養成を強調している。著者は、霊的指導者の成長に関する洞察を提供し、継続的な成長と学習の重要性を強調しています。これらのスキルと資質を培い、正式な教育と経験的な学習の両方に取り組み、個人の成長と発達を維持することで、霊的指導者を目指す人は、他者の霊的な旅をサポートするために必要な専門知識と思いやりを身につけることができます。

## 第9章 霊的指導者と指導を受ける人の関わりの基本 205

### Chapter 9 - The Basis for the Relationship Between Director and Directee

第9章では、霊的指導者と被指導者の関係の基礎を考察し、強い信頼関係を築くことの重要性を強調しています。著者は、この絆に寄与するさまざまな資質や態度、また霊的指導関係における境界意識と職業倫理、祈りの意義について論じている。これらの要素を培い、継続的な内省と評価への取り組みを維持することによって、霊的指導者と被指導者は、霊性の旅路において支援的かつ変容的なパートナーシップを育むことができます。

## 第10章 指導上、妨げとなること 234

### Chapter 10 - Disturbances in the Relationship Between Director and Directee

第10章では、霊的指導者と被指導者の関係において起こりうる障害や課題を取り上げています。著者らは、健全でサポートし合う関係を維持するために、これらの問題を認識し、対処し、決定するためのガイダンスを提供しています。オープンなコミュニケーションを育み、適切な境界線を維持し、必要に応じてガイダンスとサポートを求めることで、霊的指導者と被指導者はこれらの課題を乗り越え、霊的旅路において共に成長し続けることができます。

## 第11章 霊的指導におけるスーパービジョン 262

### Chapter 11 - Supervision in Spiritual Direction

第11章では、霊的指導の文脈におけるスーパービジョンの概念を考察している。著者は、霊的指導者のスキルと理解を高め、指導者と被指導者の幸福を守り、指導者の個人的成長を促進し、燃え尽きを防ぐためにスーパービジョンが重要であることを強調しています。また、効果的な指導者の資質を概説し、すべての霊的指導者のための継続的なスーパービジョンが重要であることを強調しています。

## 第12章 おわりに 289

### Conclusion

本書の中核となるテーマとメッセージが集約されています。著者らは、霊的指導の主要な原則を要約し、それによって人が変容される可能性について考察し、指導者と被指導者の両方に対するその意味について言及しています。体験の宗教的次元の重要性、祈りの役割、優れた霊的指導者の資質と技能、指導者と被指導者の学習と成長発達の重要性、そして指導者自身の霊的な旅と神との関係の実践における重要性を強調しています。

2023年5月27日 村上芳隆 ofm

## 「靈的指導の実践」の日本への適応

By ChatGPT4.0

日本における靈的指導者養成コースのテキストとして「靈的指導の実践」を使用する時の、文化的適応と考慮点（英語 940 語、日本語約 2 200 字）：By ChatGPT4.0

2023 年 5 月 27 日

ウィリアム・A・バリーとウィリアム・J・コノリーによる “The Practice of Spiritual Direction” は、洞察力に富んだ靈的指導者のための包括的なガイドであり、日本での靈的指導者養成コースの優れたテキストとして役立つでしょう。しかし、日本独自の文化的背景を考慮すると、この本を日本の読者にとってより適切でアクセスしやすいものにするために、いくつかの適応と配慮が必要かもしれません。

**まず**、日本の文化的・宗教的背景を考慮することが重要です。日本には神道、仏教、その他様々な宗教的、哲学的伝統を含む豊かな靈的遺産があります。本書はキリスト教の観点から書かれていますが、これらの多様な靈的伝統を尊重し、認めるような形でその教えを構成することが有益でしょう。そのためには、靈的指導の原理と実践を日本の靈的伝統と並行させ、日常生活の靈性、注意深さとマインドフルネスの重要性、靈的实践による自己変革の可能性などの共通テーマを強調することが考えられる。

**第二に**、靈的指導者の役割は日本の宗教的伝統では一般的でないため、靈的指導の概念は多くの日本人にとって馴染みのないものである可能性があります。したがって、日本の読者にとって身近で親しみやすい言葉や概念を用いて、靈的指導者の役割を明確かつ詳細に説明することが有益でしょう。靈的指導者の役割を、禅師、スピリチュアル・メンター、ライフ・コーチなどと比較することも考えられます。

**第三に**、本書で使用されている言語や用語は、日本の文脈に合わせる必要があるかもしれません。そのためには、原文の意味や精神を正確に伝えるような日本語への翻訳が必要になるでしょう。また、「恵み」「罪」「贖罪」など、キリスト教の伝統に特有の用語や概念を、日本の読者になじみやすい用語や概念で説明したり置き換えたりする必要があるかもしれません。

**第四に**、日本の文化的価値観や規範が、靈的指導の実践に影響を与える可能性があります。例えば、日本の文化は、調和、謙遜、間接的なコミュニケーションを重視する傾向があり、これは靈的指導者と指導を求める人との関係の力学に影響を与える可能性があります。したがって、これらの文化的価値観や規範が、日本の文脈における靈的指導の実践をどのように形作るかを考察し、文化の違いや課題をどのように乗り越えるかの指針を提供することが重要であると思われます。

**第五に**、本書が強調する神と個人の関係の個人的かつダイナミックな性質は、日本の読者に響くような形で再構成される必要があるかもしれません。日本の靈的伝統では、神は個人的な神というよりも、自然や先祖、あるいは様々な神の中に内在していると認識されることが多い。従って、神からのコミュニケーションというよりも、日々の体験の中にある神聖なるものを認識し、お応えすることを語る方が効果的かもしれません。

**最後に**、本書で提案されている実践や演習に、日本の靈性の要素を取り入れるとよいかもしれません。例えば、禅のメディテーションやマインドフルネス、自然をベースとしたスピリチュアリティなどの実践を靈的指導プロセスとして統合し、これらの実践がいかに観

想的な態度を養い、神との関係を深めることができるかを考察することができるだろう。

**結論として**、『靈的指導の実践』は靈的指導者を養成するための貴重な資料ですが、日本の読者にとってより適切で親しみやすいものにするために、日本の文化的文脈に合わせる**ことが重要**です。そのためには、日本の文化的・宗教的背景を考慮し、靈的指導の概念を文化的に親しみやすい方法で説明し、言語や用語を日本の文脈に合わせ、文化的価値観や規範を認め、それをうまく利用し、神との個人的関係という概念を再構築し、本書で提案されている実践に日本の靈性の要素を取り入れる必要があるでしょう。

このようなテキストや概念の適応に加え、日本の靈的指導者養成コースで本書を使用する際の**教育的アプローチ**は、文化的に敏感で包括的であるべきです。例えば、欧米では一般的な学習方法であるグループディスカッションは、日本では話すことよりも聞くこと、個人の意見よりも合意を重視する傾向があることから、慎重に進める必要があるかもしれません。また、講義や実演、実践的な練習、日本の文脈で馴染み深く、効果的な教え方を取り入れることも有効かもしれません。

さらに、**本書のケーススタディや事例**を、日本の文脈に関連したもので補うことで、日本の読者が靈的指導の原理と実践をよりよく理解し、適用できるようになるかもしれません。また、日本の靈的指導者の経験者を招き、あるいは寺社や靈性リトリートセンターへの訪問を企画することで、貴重な実践的洞察やインスピレーションを得ることができるでしょう。

要するに、『靈的指導の実践』を日本の文脈に適合させることは、単に翻訳やローカライズの問題ではなく、異文化間の対話と変容のプロセスなのです。そのためには、キリスト教的靈的指導の伝統と日本の靈的伝統の両方を深く理解し、文化の多様性を尊重し、文化の境界を越えた普遍的靈性を育む取り組みが必要です。

そうすることで、靈的指導の知恵と実践が、特定の宗教的伝統や文化に閉じこもることなく、靈的な旅を深めようとするすべての人がアクセスできるようにすることができるのです。これこそが靈的指導者の真の精神であり、『靈的指導の実践』を日本での靈的指導者研修コースのテキストとして使用することの最終目標であると私は考えています。